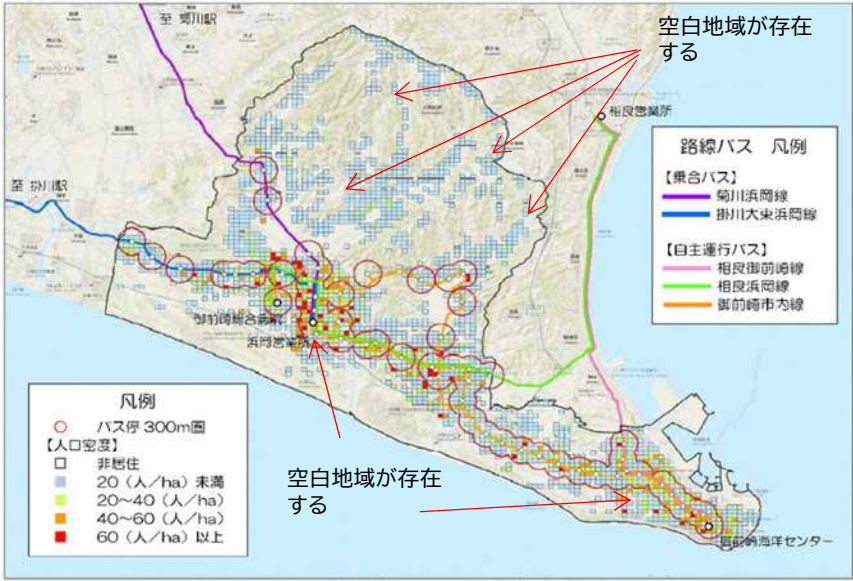


御前崎市の公共交通の現状・課題

前提：市民に実施したアンケートで、公共交通の利便性に対する評価が非常に低く、御前崎市の住みにくい理由として、交通の便が悪いことが上位に挙げられている。

No	現状	課題
1	現在の御前崎市内線では全ての居住地域をカバーできておらず、停留所から 300m以上離れた交通空白地域が広く存在している。（市では市内全 8 地区を交通空白地域として設定している。）  空白地域が存在する 空白地域が存在する 凡例 バス停 300m圏 【人口密度】 □ 非居住 ■ 20 (人/ha) 未満 ■ 20~40 (人/ha) ■ 40~60 (人/ha) ■ 60 (人/ha) 以上 路線バス 凡例 【乗合バス】 ■ 菊川浜岡線 ■ 掛川大東浜岡線 【自主運行バス】 ■ 相良御前崎線 ■ 相良浜岡線 ■ 御前崎市内線	利用者の移動手段の少なさ
2	バス運行の本数が少ないため、朝の時間帯などで、菊川浜岡線・掛川大東浜岡線の出発時間に間に合わない。	利用者の乗り継ぎの不便さ
3	物価高騰等により、運行に掛かる経費（委託料）が高くなっている。そのため、利用の少ない時間帯の減便やダイヤの改正をしているが、バス運行間隔が 1 時間～1 時間 30 分に 1 本程度の時間帯となっている。	利用者の希望する時間帯に移動できない
4	利用者は以前から減少傾向であったが、新型コロナウイルス感染症拡大により、一気に利用者が減少した。現在もコロナ禍前の水準には戻っていないため、運賃収入も減っている。	市の収入減少
5	路線バスが通っていない又は少ない地域では、地域のボランティアによる「地域協働バス」が運行されていて、高齢者の重要な移動手段となっている。しかし、運転手も高齢化しているため、サービスを維持していくことが難しい地区がある。	地域協働バスの運転手の高齢化・人材不足